

本書は、職業カウンセリングと行動主義心理学という、お互いに多くを与えうる二つの分野の相互作用の始まりを形にしたものである。行動主義心理学とは、強化の原理と行動主義的な見方を、人間のほとんどすべての問題に適用する、急速に拡大している分野である。職業カウンセリングとは、人間が、社会に貢献する一員として、満足しうる雇用を入手できるよう支援することによって、個人および社会のニーズが満たされることに興味を持つ分野である。行動主義者は、これまで、行動・学習・動機付けの原理を、求職活動の問題に体系的に応用してこなかった。しかしながら、求職者が抱えている困難は、学習、動機付け、行動の維持など、行動主義的アプローチが最も有効に作用すると思われる問題にかかわっているように思われる。

求職活動への行動主義的アプローチは、その原理の単なる拡張ではない。求職のプロセスは、行動主義者がかつて研究したことがない、複雑な経済的・社会的要因の結果であり、これらについて行動主義者は、職業カウンセラーから多くを学ばなければならない。職業カウンセラーの最終的な目的は、クライアントに仕事をみつけるという明確に定義された行動上のアウトカムであるため、行動主義者にとって、これを、給与、就職の達成スピード、仕事の継続といった、明確に定義された次元を持つ、正当な標的行動として受け入れることは何も難しくない。行動主義者にとって難しいのは、雇入れのプロセスを改善するために、行動主義的な概念や手続きが役に立つことを示すことである。

肉体的な病気と同様、失業は、ほとんど普遍的に認識されている、数少ない問題の一つである。失業は、おそらく、それ自体から、あまりにも多くの心理的社会的問題が生じてくる、主要な社会的・経済的問題である。多少の失業はあることが望ましいと考えるごく少数の人は、他人の失業についてその判断を適用しているのであって、自分自身の失業についてではない。失業を解決する一つの方法は、中央政府がすべての仕事を統制し、企業に雇うべき人を強制できる国家経済である。個人の選択を強調するアメリカ経済では、雇用は、雇用主と求職者との間で行われる決定である。しかし、このような民主的な仕組みのおかげで、偏見、嗜好、差別が生じ、多くの人々が長期間失業する結果となっている。一つの解決は、雇用における決定の自由を残しつつ、官民が徹底的な求職支援プログラムを提供することである。

求職支援プログラムにはいろいろなタイプがあるが、行政機関、ガイダンスカウンセラー、民間職業斡旋機関、ボランティアグループなどが、それぞれの好みのやり方を主張している。同様に、求職支援のマニュアルもいろいろあり、異なるアプローチを強調している。これらのプログラムとマニュアルが有効であるというエビデンスは、注意深く選ばれた求職者の証言や、奇跡的な成功の逸話、求職過程の不完全な統計によって示されてきた。統計的に適切なデザイン、コントロール群、母集団の特定化、綿密な追跡、手続きの標準化が、評価の基盤として一般的に用いられていないため、これらのプログラムの評価は直感的にすぎない。

本マニュアルで紹介する求職プログラムは、厳密な科学的評価に基づいて開発されたものである。世間に受け入れられるべき求職プログラムは、就職に有効でなければならない。有効性は、統計的に比較可能なコントロール群を用いて評価されなければならないが、ほとんどすべての従来の求職プログラムはこのような評価を明らかに欠いている。本書で紹介するプログラムの評価は、母集団の特定化、すべてのクライアントの追跡、確立された概念枠組み（＝行動主義）への依拠、詳細な手続きの指定といった点において優れている。本書では、このような手続きが詳細に特定化されているので、カウンセラーは、図、表、手引き、備忘用紙、記録用紙、標準的なセリフなどを用いて、一般的なアドバイスではなく、定められたカウンセリング手続きを用いて支援をすることができる。同様に、重要なことに、求職者のほうも、ガイドラインに従って求職活動をすれば、この手法に関する実験研究で見出されたのと同等の成功を取められるということを知って、これらの標準的な様式を用いて高度に構造化された手順で求職活動を行うことができる。

著者は、すべての求職者が仕事に就くことができることを保証する手法を開発したいという夢を持って求職に関する研究を始めた。その後の評価の結果、さまざまな研究において、ジョブクラブに参加した継続的な求職者の失業率は一貫して10%以下であるのに対し、コントロール群の失業率は40%から72%であり、この理想はほぼ達成された。私たちの結論は、すべての人々は仕事に就くことができ、ジョブクラブ方式の求職手法に継続的に参加すれば、仕事に就きたい人のほとんど全員が、より短い期間で、かつ、その他の方法で得られるのと同等かそれ以上の収入の仕事に就くことができるというものである。こうした結果は、集権化された国家統制に私たちの経済生活を従属させることなく、すべての人々が仕事に就くという目的に一歩近づいたことを意味している。

ジョブクラブ方式に関する当初の研究結果は心理学の学術誌に発表された。この方式は具体的な手続きを特徴とするが、雑誌論文のページ数では書ききれないので、何百人ものカウンセラーから、具体的な手続きを記述したカウンセラーマニュアルを入手したいという依頼があった。また、評価研究が大きな有効性を示したため、多くのカウンセラーが、この方式の詳細な手続きを知らないまま、この標準的な手法を用いて支援を行おうとしている。そこで、「ジョブクラブ・カウンセラーのためのマニュアル」（訳注：原著名の直訳）は、この実証済みのプログラムを忠実に実施するために必要である、手法の詳細な説明と標準化された様式への需要に応えることを目的としている。意気阻喪した失業者が社会で機能的で自立した役割を回復できるという、私たちが感じ続けている喜びを、このマニュアルの読者が共有し続けてくれることを楽しみにしている。

【ジョブクラブ・カウンセラーのためのマニュアル】には、三つのセクションがある。まず、（一番長い）Ⅰは、カウンセラーに、求職のためのグループ「ジョブクラブ」を立ち上げ運営していくのに必要な情報と手続きを提供する。Ⅱは、雇用プロセスに関する行動主義的な見方を提供して、求職に関するジョブクラブアプローチの概念枠組みを確立し、このアプローチの有効性を論じる。Ⅲは、ジョブクラブ・プログラムを実施するのに必要な、様式、図などの情報を含んでいる。

専門家の参考書や手引きとして用いられるにせよ、講義の教科書として用いられるにせよ、このマニュアルは、行動主義心理学の原理がどのように、求職活動と職業カウンセリングの過程に生産的に応用されるかの例証である。